



池田町の農業について

高齡化社会の中で、就農人口は65・8歳、米の専業農家は69歳と日本の農業の危機が叫ばれている。池田町では山麓を中心に後継者不足や獣害被害、お茶・梅農家の価格低迷等に起因する耕作放棄地が点在するが対策は、農業生産組織の多くは兼業農家で、組合員の高齡化、後継者不足で組合の解散も余儀なくされるところも出てくると思われる。これらの農業生産組織と農地をどのように守っていくのか。

建設部長

耕作放棄地対策として、梅とブルーベリーにより営農の再開。鳥獣被害対策協議会を設置し鳥獣被害防護柵や緩衝帯などを設置した。

体制を維持しながら規模拡大に取り組み集落営農もある。機械購入費用に対する助成、国が実施する制度などを活用し、組織の存続と経営の安定化に向けた支援を進めていく。

認定農業者の内、高齡化のなか後継者のない農業者も多々ある。認定農業者の育成支援、また農地の集積をどのように進めていくのか。道の駅等に野菜等を供給できる農家が少ない。野菜農家の育成等の取り組みは。

建設部長

認定農業者は減少することなく、横ばいを保っている。農地の集積については農地中間管理機構の事業を活用しながら進めていきたい。

野菜農家を育成するため、国の青年就農給付金制度があるのをこれを活用し、施設野菜農家へ関係機関と共に支援を実施し、JAいび川と連携しながら自立できる野菜農家の育成を進めていきたい。

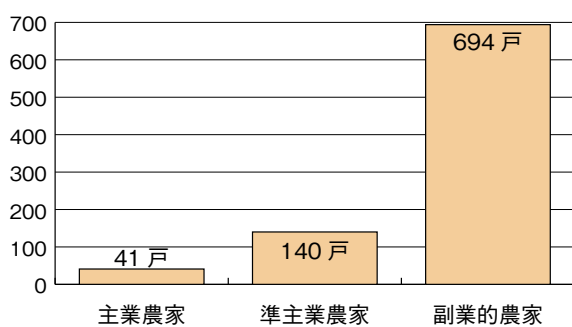
農業者の高齡化が進むなか農地の流動化は必然的に増えてくると思われる。農地中間管理機構によると担い手が利用する面積が今後十年間で現農地面積の8割となるよう、

農地集積を進めると出ている。担い手農家の育成等を含め、池田町の農業のビジョンは。

町長

26年度以降農業振興計画につき五次総に従って進んでいく。特に水田農業の担い手の育成、耕作放棄地対策を進めていく。優良農地と開発をする部分と再検討しながら、JAいび川と連携をとりながら揖斐郡全体として考えていく。

主副業別農家数



認定農業者の状況

法人	6社	
個人	31戸	
内	65歳以上	17戸 (後継者無 15戸)
	50～65歳	10戸
	40～49歳	3戸
	30歳台	1戸

25年度産業課資料より集計

農業生産組織の状況

25年度予算付属資料より集計

品目	組織数	人数
水稻のみ	10組織	174名
水稻+小麦+大豆	5組織	233名
茶	4組織	103名
畜産	1組織	6名
いちご	1組織	9名
夏・秋ナス	1組織	18名
特用林産物	1組織	4名
梅	1組織	27名
野菜	1組織	19名